

インターバンクの声（2014年7月23日）

東京市場から欧州市場に渡っても相変わらず動意が薄いままだったが、ニューヨーク市場朝方に発表された6月の米消費者物価指数のコア指数が市場予想を下回ったことで、ドルが円や豪ドルに対して売られる反応を見せた。対ユーロでも若干反応したが、先週あたりからユーロに下向きの力が働き始めたようで、消費者物価指数の発表後もユーロの軟調さが続いた。

ただ、この後に発表された6月の米中古住宅販売件数が市場予想を大きく上回ったことで、ドルは円や豪ドルに対して買戻される動きとなった。最近の米経済指標結果が必ずしも来年予定されている利上げ時期の前倒し説を後押しする結果にはなっていないが、来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）や雇用統計の結果によっては、もう少し確度の高い利上げ時期の予想形成に役立つかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。